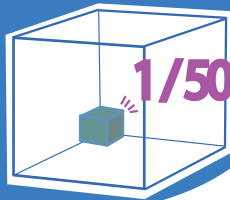


新しい建物や既存の建物でも、低コストで導入が可能になりました。  
水道圧（給水補助加圧装置）利用で貯水タンクがいりません。

屋内の火災報知器からの信号を受け、電動弁作動と同時に配管内の充水、火災があった部屋のみ散水します。制御盤と電動弁は制御盤内のバッテリーで停電時も作動します。（※1）

火災が発生した場合、電動弁と制御盤が連携し、スプリンクラー配管に充水し、火災発生場所のみ散水を行います。2階建以下の建物の場合、水道圧で散水する為、タンクやポンプは必要ありません。3階建以上5階建以下の建物の場合は、給水補助加圧装置と連携することで低コスト・省スペースでカバーすることが可能です。

3階建以上5階建以下の建物や水道圧の低い立地等で補助加圧の威力を発揮します。従来のタンクに比べ、設置面積1/10、容積は1/50。（※2）A4用紙サイズ程度で場所をとりません。



給水補助加圧装置はこんな使い方もできます！（※3）



屋外の格納箱に散水栓を設置し、近隣の建物への散水に！



屋内に水栓を設置し、非常用の水栓に！

## ご注意

（※1）給水補助加圧装置は、家庭用電源 単相 100V・単相 200V に対応、インバーター制御により電源周波数は全国统一仕様ですが、バッテリーは内蔵されておりません。

（※2）（株）川本製作所の水槽付きタイプ（KT形）と比較した場合

（※3）必ず自動接水栓、ホースバンド、ポリエステル補強ホースをご使用ください。

※給水補助加圧装置 KJD 形は、（株）川本製作所の製品です。詳細は、メーカーカタログやHP等をご覧ください。

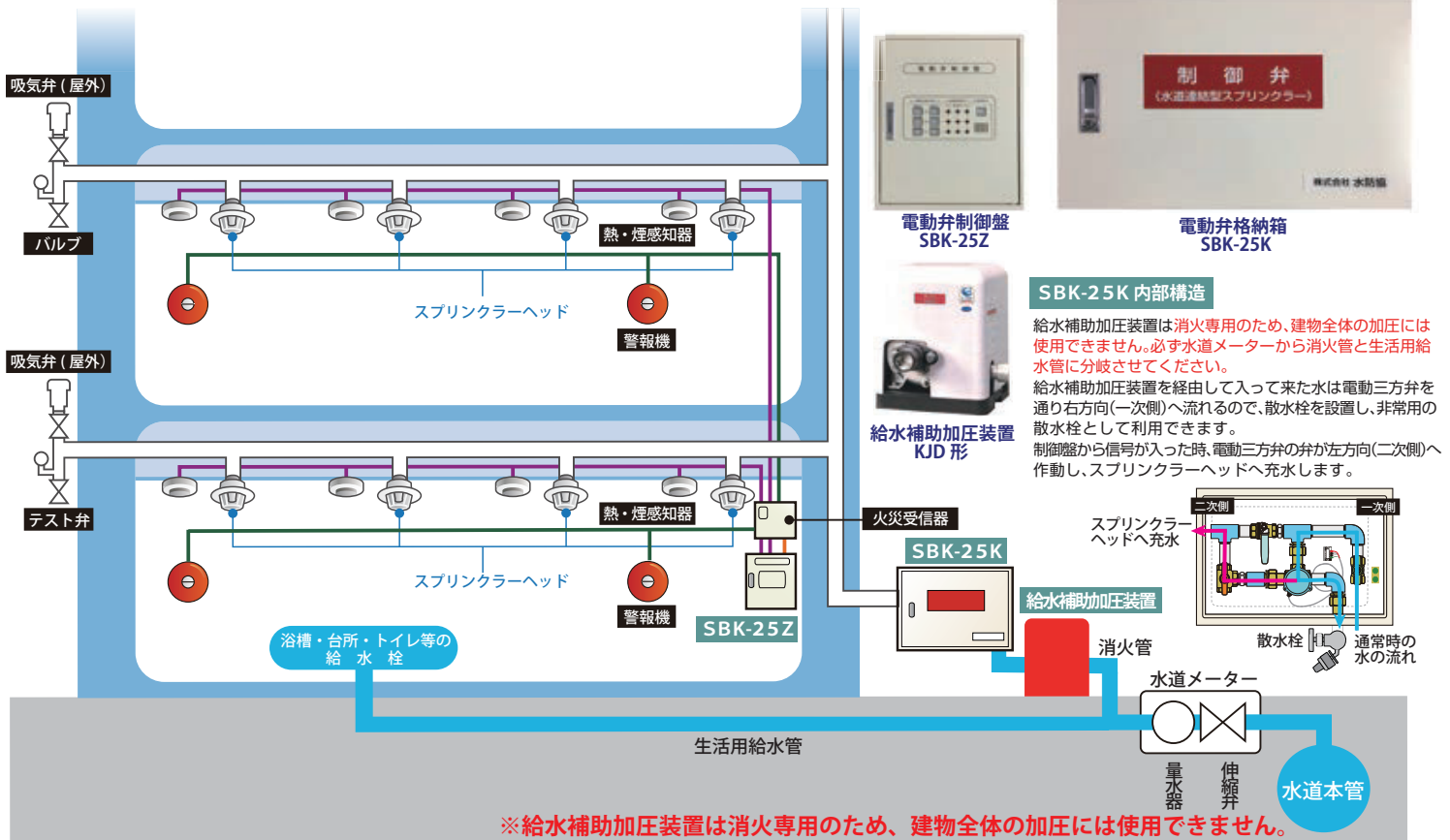
※「特定施設水道連結型スプリンクラー設備」に使用する給水補助加圧装置として、（公社）日本水道協会の認証取得をしております。

※設置にあたっては、必ず所轄の水道事業者・消防と打ち合わせを実施し、指導を遵守しご計画ください。

※給水補助加圧装置が使用できるのは、「特定施設水道連結型スプリンクラー設備」に限定されます。

## 設置例 (システム構成図)

※設置例(システム構成図)は設備図などをもとに分かりやすく描いたイメージです。建物及び各機器の寸法(縮尺)や位置関係は実際とは異なります。



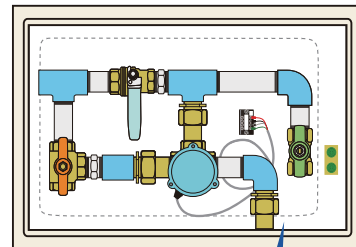
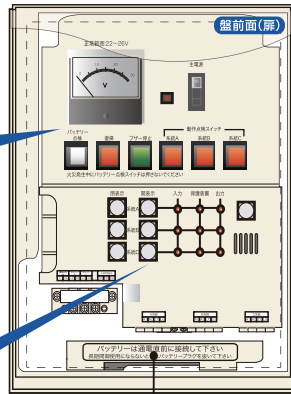
## 構造と各部名称

### 電動弁制御盤【内部】

- 主電源スイッチ(内蔵)
- 避雷器(内蔵)
- 復帰スイッチ(作動停止)
- 警報ブザー停止スイッチ
- バッテリー点検スイッチ
- バッテリー点検用メーター
- 動作試験スイッチ/表示灯(系統A~C)
- 電動弁接続端子部(系統A~C)
- 制御線接続端子部
- AC-100V接続端子

### 電動弁制御盤【屏表示面】

- 電動弁開表示灯(系統A~C)
- 電動弁閉表示灯(系統A~C)
- 電動弁断線警報灯(系統A~C)
- 電動弁保護装置警報灯(系統A~C)
- 入力信号断線表示灯(系統A~C)
- 警報ブザー(防水型)

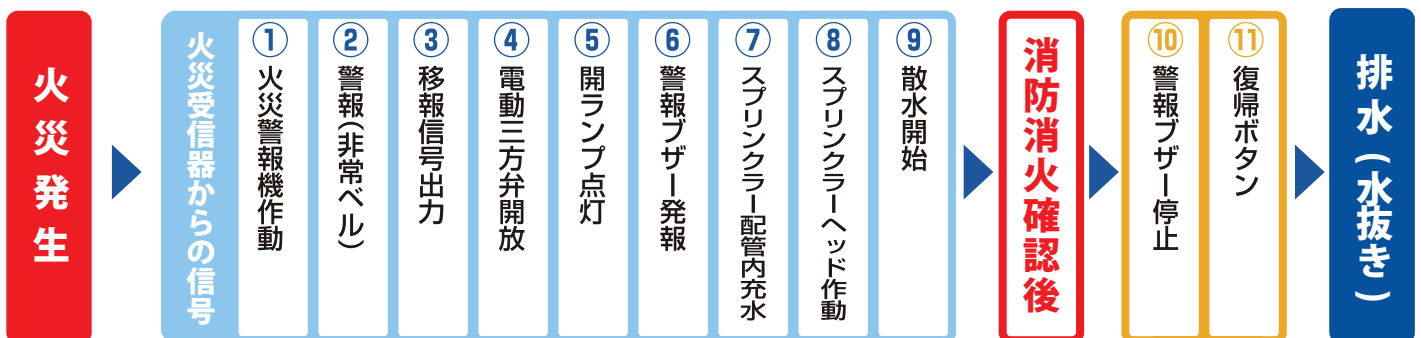


### 電動弁格納箱【内部】

- 鉛レスボール弁
- 電動三方弁
- 手動三方弁(テスト用・排水用)
- 手動開放弁(緊急用)
- 手動開放弁(電動三方弁軸)(緊急用)

図面は壁掛用電動弁格納箱(SBK-25K)を掲載。床置用(SBK-25F)もあります。

## システム動作フロー



- 警報ブザーの停止はブザー停止ボタンを、散水を停止するには火災受信機を通常に戻し、復帰(動作停止)ボタンを押します。
- 安全確認のため、手動による操作になります。